リーダーたちの本棚 VOL.82
Leaders as Reader

企画・制作 朝日新聞社広告局 広告特集

L 【率いる】Leading
青学の研究を知ってほしい

青山学院大学は、現在10の学部、12の研究科を持つ。学部の学生総数は約1万7,600人、大学院の学生総数は約1,200人。米国のメソジスト監督教会から派遣された宣教師が創立した三つの学校を源流とし、キリスト教信仰にもとづく教育を重視する。2014年に創立140周年を機に、創立150周年に向けて、すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーの育成を目指す『AOYAMA VISION』を策定した。さらなる飛躍を目指す中で、法学部教授の三木義一氏が学長に就任した。三木学長は、同学で教鞭をとりつつ弁護士としても活動。10年には民主党政権下で政府税制調査会専門委員を務め、現在は民間の立場から税制に関する政策提言を行っている。「愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす人間の形成」という青学の教育方針を自ら実践しているリーダーだ。

「青学の社会的評価をより一層高めるよう全力を挙げて改革に取り組みたいと考えています。従来、青学に対する評価は、『女子力』『おしゃれ』『明るい』『校舎がきれい』など、ポジティブなイメージが多く、大変うれしいことです。その一方で、本学で行われている学問研究については意外と知られていません。例えば、理工学部の原田実教授率いる原田研究室では、人工頭脳の開発を行い、その技術はヒューマノイドロボットを始め、様々な分野で活用されています。そうした研究活動をいきいきと伝えられたら、中高生を含めて多くの学生たちがわくわくしてくれるはずです。優秀な教員と好奇心旺盛な若者たちとの出会いの場を増やしていけたらと思っています」

新たに掲げた「AAA」が意味するもの

就任後、「青山アカデミックアスリート(Aoyama Academic Athletes)」、略して「AAA(トリプルエー)」という標語を掲げた。その精神をわかりやすく体現しているのが、箱根駅伝で活躍した学生たちだと言う。「青学生はとかく『チャラい』という言葉で形容されます。私はそれをほめ言葉として捉えています。箱根駅伝で優勝した彼らは、陰で大変な努力をしていますが、本番はのびのびと楽しみ、優勝後のコメントはスマートでウイットに富んでいました。それは、根性至上主義の日本のスポーツ文化と一線を画すもので、大学のブランドイメージとして胸を張れると思っています」

伝統的に語学や国際教育を重視し、世界各国に海外留学の道を開く一方、海外から多くの留学生を受け入れている。昨年は、アジアやアフリカ諸国など新興国や途上国にも精通する人材を育てるべく、「地球社会共生学部」を新設した。

「語学力はあって当然で、プラスアルファの見識を携えて国際社会で活躍できる人間の育成を目指しています。今後力を入れていきたいのは、国内の地域振興に寄与できる人間育成です。すでに複数の市と連携関係を築いており、夏休みなどに教員や学生を地方に派遣して英語の授業を行ったり、インターンシップの学生を地方自治体に派遣して街づくり構想に参画してもらったりと、新しい試みを始めていきます」

学長としてのモットーは、「ゆっくり急げ」。前向きな改革は積極的に進めるが、教職員の自発的な協力が大前提。そのために情報の透明性を高め、議論の場を増やしている。

ウェブ広告朝日
■朝日新聞社広告局ウェブサイトでは、三木義一さんが語るリーダー論を紹介しています。
http://adv.asahi.com
朝日新聞 広告 検索

青山学院大学 学長
三木義一(みきよしかず)さん

一橋大学大学院修了。法学博士。静岡大学人文学部法学科教授、立命館大学法学部教授、同大大学院法務研究科教授などを経て、青山学院大学法学部教授。ドイツでミュンスター財政裁判所客員裁判官も務めた。2015年12月から現職。

R 【読む】Reading
税制を自分の問題とするために

「専門分野に寄った選書となりましたが、日本の将来を考える上で避けられない課題を扱った本ばかりです」。租税法を専門分野とし、『よくわかる税法入門』(有斐閣選書)、『日本の税金』『日本の納税者』(ともに岩波新書)など著作も多い三木義一さん。昨年末に青山学院大学の学長に就任、新しい時代に貢献できる人間育成と、その環境整備に邁進している。

自分の礎となった『法というものの考え方』

昨年12月に学長に就任しました。箱根駅伝の直前です。青学は前回の優勝校。「学長が変わったから今回は優勝できなかった」となったら立つ瀬がないぞとドキドキしましたが(笑)、そんな心配をよそに学生たちは日頃の鍛錬の成果を発揮し、完全優勝を果たしてくれました。

私自身の大学時代は、弁護士を目指して法学部で学んでいました。読書にも励み、年間100冊は読んだでしょうか。その中でも『法というものの考え方』は、自分の礎となった書です。「本来は自由で平等な契約関係が、資本家と労働者の支配関係の中で不自由なものとなり、その問題解決のために社会法がある」といった弱者を守る法の価値を学びました。文章も魅力的で、その感想と「私の大学で講義してほしい」との願いを著者の渡辺洋三先生に送ったところ、快諾してくださいましてね。法学の第一人者が一学生の願いをかなえてくださったことに感動し、生の講義をありがたく拝聴しました。

私は現在も青学でゼミを持ち、二十数名の学生に法学を教えています。ゼミではディベートを重視。「汝、敵を知れ」をモットーに、学生が原告と被告に分かれて主張を交わします。最近は、論証力をもっと鍛えさせなければと、書く課題も増やしています。どれもなかなかいい出来で、青学生の底力を感じています。

説得力にみちたラサールの弁護演説

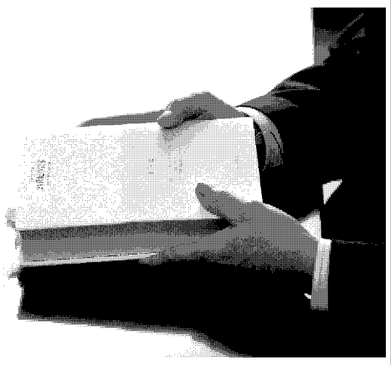
30代の頃にドイツのミュンスター大学に留学しました。しばしば話題にのぼったのが、プロイセン王国の労働運動家、ラサール。ラサールは、低所得者層を苦しめる大衆課税制度を批判し、有産階級への憎悪を扇動した容疑で告訴されました。その裁判の弁護演説を記した『間接税と労働者階級』も、大学時代に影響を受けた本です。食品などにかかる間接税が、低所得者ほど重い負担を強いられる逆進性の問題をはらんでいることは今や明らかですが、私にそれを教えてくれたのが、約150年前に原書が書かれた本書でした。

『私たちはなぜ税金を納めるのか 租税の経済思想史』は、欧米諸国の租税思想史を、財政学の視点から描きます。特に読み応えがあったのは、アメリカの税制史です。19世紀後半から20世紀初頭にかけての二大政党間の主たる対立軸が税制であったことに触れ、「人々が選挙を通じて自らが支持する政党を多数派に押し上げ、議会における徹底した論争を経て『下から』獲得していく途があることを、アメリカ税制は教えてくれる」と書いています。税金は「上から」言われるまま負担するもの、という日本人の消極的な意識とは大きく違いますね。

本書の後半では、富裕層の脱税や企業の租税回避、先進国と途上国の格差拡大などが問題になる中、一国単位の課税制度から世界共通の課税制度へと仕組みを変えていく必要があると説いています。これと同じ指摘をしたのが、『タックス・ヘイブン 逃げていく税金』の著者、志賀櫻氏です。志賀氏は、脱税や租税回避、犯罪やテロ資金、巨額な投機マネーなどの温床となっているタックス・ヘイブンの害悪と、そのために一般の善良な納税者が無用で余分な税負担を強いられ、犯罪やテロの被害者となり、マネー・ゲームの引き起こす損失や破綻のツケを支払わされていることを指摘。さらに、タックス・ヘイブンを取り締まるべき先進国、中でも、イギリス、アメリカ、スイスやルクセンブルクなど欧州諸国がタックス・ヘイブンを守り、荒稼ぎをしている事実を伝えています。志賀氏とはかつて政府税制調査会でともに仕事をした仲で、政策提言組織「民間税制調査会」でも一緒に活動しました。志賀氏は、大蔵省主税局国際租税課長やOECD租税委員会日本国代表などを歴任した人物。彼ほど国際金融の裏の裏を知っていた日本人はいないでしょう。私が民間税調の共同代表として現政府への答申をまとめた際には、慰労のメールをくださいました。病没されたのはその1週間後。常に「市民のために」と活動していた志賀氏の提言が詰まった本書を多くの人に読んでほしいと思います。

最後は、ピケティの『21世紀の資本』です。「資本主義社会は経済成長をすれば格差が必然的に広がる。その格差を縮小し、安定した社会の形成に寄与したのは税制であった」ということを数値的に証明した書として大変評価しています。

日本の財政は危機的状況にあります。税制を役人や政治家任せにするのではなく、主権者である国民一人ひとりが自らの問題として考えることが大切で、その参考になる本を挙げました。(談)



三木義一さんのおすすめ本棚

『法というものの考え方』
(岩波新書) 渡辺洋三・著

法や法治主義をどのように考えるべきなのか。そう考えることが日常生活でどんな意味を持つのか。法というものの考え方の基本を示す。

『間接税と労働者階級』
(岩波文庫) ラサール・著 大内力・訳

ブルジョア批判で告訴された著者の渾身(こんしん)の弁護演説。租税の源泉、租税の転嫁、租税の階級制という近代財政学の諸問題を具体的な状況分析をもとに説く。

『私たちはなぜ税金を納めるのか 租税の経済思想史』
(新潮選書) 諸富徹・著

納税は義務なのか、権利なのか? 租税は財源調達手段なのか、政策遂行手段なのか? 世界の税制や経済思想の流れをたどり「税」の本質を解き明かす。

『タックス・ヘイブン 逃げていく税金』(岩波新書)志賀櫻・著

税制の根幹を破壊する悪質な課税逃れのカラクリの中心にあるタックス・ヘイブン。その実態を明らかにし、生活と経済に及ぼす害悪に警鐘を鳴らす。

『21世紀の資本』(みすず書房)
トマ・ピケティ・著 山形浩生・守岡桜・森本正史・訳

経済的格差は長期的にどう変化してきたのか? 資本の蓄積と分配は何によって決定づけられているのか? 詳細なデータと明敏な理論により解き明かす。

三笠書房
千代田区飯田橋3-3-1
◎詳細は⇒http://www.mikasashobo.co.jp
◎(株)ブックライナー〈フリーダイヤル〉0120-398899
(9:30~19:00)からもご購入いただけます。
三笠書房BOOKSTOREで立ち読みができます!!
http://www.mikasabooks.jp

王様文庫 5万部突破!!
「起こること」はすべて意味がある
ジェームズ・アレン[著]/「引き寄せの法則」研究会[訳]
思い描くことが現実になる「引き寄せ」の法則
ISBN978-4-8379-6766-8 ●定価(本体500円+税)

知的生きかた文庫 大ベストセラー第2弾!!
23万部突破!
気にしない練習
元結不動 密蔵院住職 名取芳彦
ISBN978-4-8379-8309-5 ●定価(本体550円+税)
大事なものだけ残していく、人生のヒント
ためない練習
それは、あなたに必要ない。

さりげなく、折り目正しく「こころ」を伝える
美しい「大和言葉」の言いまわし
日本の「言葉」倶楽部
3刷!!
どうしようもない▼よんどころない
終日▼朝な夕な・ひねもす
わずかの間・一瞬▼たまゆら
この言い換えが「大人しい」日本人のたしなみ!
*「おとなしい」…落ち着いた「大人」を意味する「大和言葉」
ISBN978-4-8379-8379-8 ●定価(本体630円+税)

「1分間で信頼される人」の話し方
図解 今日、結果が出る! 最新刊
頭のいい説明「すぐできる」コツ
鶴野充茂 ISBN978-4-8379-2626-9 ●定価(本体1100円+税)
図解だから、すぐできる! すぐ成果が出る!
50万部突破のベストセラー、待望の図解版!
『要約』ゴチャゴチャ スッキリ! シンプル
『要点』主役 ワキ役
『タイトル』つまり、一言で言うと?
『視覚化』半年で3倍!
「説明能力」が、そのまま「仕事能力」になる!

最新刊
始める、進める、続ける——
考える前に動く習慣
曹洞宗徳雄山建功寺住職 枡野俊明
ISBN978-4-8379-2623-8 ●定価(本体1300円+税)
行動的な1日をつくる「禅的習慣」
■肝心なのは、スピードではなく「スタート」
■大事なことは、「頭」ではなく「身体」で覚える
■「やめる」のも、「すぐに」やる
■「ルーティン」が、ちょっとした体調の変化も教えてくれる
■人間のバイオリズムに反することを習慣にしない
■もっと「直感」を信じて行動を起こす
これがわかれば、人生は難しくない
考えすぎるのではなく、無思慮になるのでもなく、ただシンプルに「一歩踏み出す」。
——人生は、ここから好転する
無料お試し版配信中!

眠れないほどおもしろい心理テスト 最新刊
人間心理の[秘密の扉]を開ける本!
「あなた」と「あの人」の意外な部分が見えてくる!
心理アナリスト 亜門虹彦
ISBN978-4-8379-2617-7 ●定価(本体1300円+税)